

平成29年度

研究開発実施報告書

第1年次

北海道

東川町立東川小学校 外6校（園）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東 | 川 | 町 | 立 | 東 | 川 | 小 | 学 | 校 |
| 東 | 川 | 町 | 立 | 第 | 一 | 小 | 学 | 校 |
| 東 | 川 | 町 | 立 | 第 | 二 | 小 | 学 | 校 |
| 東 | 川 | 町 | 立 | 第 | 三 | 小 | 学 | 校 |
| 東 | 川 | 町 | 立 | 東 | 川 | 中 | 学 | 校 |
| 北 | 海 | 道 | 東 | 川 | 高 | 等 | 学 | 校 |
| 東 | 川 | 町 | 立 | 東 | 川 | 幼 | 稚 | 園 |

本報告書に記載されている内容は、学校教育法施行規則第 55 条、第 79 条において準用する第 55 条及び第 85 条の規定に基づき、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって、この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できる性格のものでないことに留意してお読みください。

目 次

平成 2 9 年度

研究開発実施報告書・第 1 年次

I 平成 2 9 年度 研究開発実施報告書（要約）

| | | |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | 研究開発課題 | 3 |
| 2 | 研究の概要 | 3 |
| 3 | 研究の目的と仮説等 | 3 |
| 4 | 研究内容 | 4 |
| 5 | 研究開発の成果 | 8 |
| | (参考) | |
| | 東川小学校教育課程表（外 3 小学校）教育課程表 | 1 0 |
| | 東川中学校教育課程表 | 1 1 |
| | 東川高等学校教育課程表 | 1 2 |
| | 学校等の概要 | 1 3 |

II 平成 2 9 年度 研究開発実施報告書

| | | |
|---|-----------------------|-----|
| ア | 研究開発の概要 | 1 9 |
| イ | 研究開発の経緯 | 2 0 |
| ウ | 研究開発の内容 | 2 2 |
| エ | 実施の効果 | 3 6 |
| オ | 研究開発実施上の問題点及び今後の研究の方向 | 3 7 |

平成29年度

研究開発実施報告書

(要約)

第1年次

研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

平成30年3月

東川町立東川小学校 外6校(園)

| | | |
|---|------------------|-------|
| 1 | 東川町立東川小学校 外6校(園) | 29～32 |
|---|------------------|-------|

平成29年度 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

2 研究の概要

自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際感覚」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として『グローブ(Globe)』を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、次の3点の研究を行う。

- ① 新教科『グローブ(Globe)』の創設と指導内容、指導方法及び評価方法の在り方
- ② 幼・小、中・高における国際教育や英語教育（コミュニケーション能力）の接続の在り方
- ③ 外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材（12か国のJETスタッフ、10か国の日本語学校留学生）の有効的な活用の在り方

3 研究の目的と仮説等

（1）研究の目的

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に適用するコミュニケーション能力を育成するため、新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法の在り方を探る。

（2）研究仮説

国際教育を中核とした新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法及び評価方法を体系的に構築することにより、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

（3）教育課程の特例

- ① 創設教科『グローブ(Globe)』 授業時数
 小学校1・2年 年間 35時間、 小学校3・4年 年間 70時間
 小学校5・6年 年間105時間、 中学校1～3年 年間160時間
 高等学校1・2年 年間150時間、 高等学校3年 年間100時間
- ② 既存教科等の授業時数変更に伴う対応案

| | |
|----------|-----------------------------|
| 小学校1・2年 | 生活科から15時間、学校裁量の時間から20時間 |
| 小学校3・4年 | 総合的な学習の時間から35時間、外国語活動から35時間 |
| 小学校5・6年 | 総合的な学習の時間から35時間、外国語から70時間 |
| 中学校1～3年 | 総合的な学習の時間から20時間、外国語から140時間 |
| 高等学校1・2年 | 特別活動から10時間、外国語から140時間 |
| 高等学校3年 | 特別活動から7時間、外国語から93時間 |

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

① 『グローブ(Globe)』カリキュラムについて

自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく(多文化共生)ための資質・能力を育むことができる。

次の3領域で、グローバル化に対応する資質・能力を育むことを目的に、小学校・中学校におけるカリキュラムを編成した。

「ローカル」要素：自国や地域の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。

(自己理解、郷土理解)

「グローバル」要素：多様な異文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。

(異文化理解、問題解決、相互依存、多文化共生)

「コミュニケーション」要素：文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力を育成する。

(コミュニケーション)

【幼稚園】

- ・年中児には、日本の伝統行事や外国の行事に関わる活動の中にALTが入り、園児との交流を図ることにより、自分とは違う国の人に親しみをもつとともに、英語のゲームや歌に取り組み、英語に親しむことができるようにする。
- ・年長児には、ALTの主導の下、簡単な英単語を使い、歌・踊り・ゲームなどの活動を通して英語に親しむようにするとともに、遊びの楽しさを友達と共感できるようにする。
- ・小学校との滑らかな接続に向けて、「幼・小連携事業」においては、『グローブ(Globe)』を実施する。

【小学校】

- ・「ローカル」要素(以下、【L】とする。)

集団活動に進んで参加するなど、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとするとともに、自分の地域や国の伝統や歴史、郷土を愛する心をもっている。
- ・「グローバル」要素(以下、【G】とする。)

どの国・民族の文化でも尊重し、誰とでも公平に接するとともに、日頃から人との関わりを大切にして、寛容的及び協力的な態度で生活していこうとする。
- ・「コミュニケーション」要素(以下、【C】とする。)

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- ・単元の中に【L】、【G】、【C】を取り入れた流れとする。学習のはじめに地域教材を扱い、よさや課題について考え、単元全体の課題を設定する。次に課題解決に向けて、必要な知識・

技能を外国語活動・外国語科の学習で身に付ける。そして、学習で得た知識・技能を使って、多くの人と関わり、自分の考えをもち、表現する。

- ・中学校との滑らかな接続として「クラスルーム・イングリッシュの使用」、「英語の発音」、「アルファベットの定着」を4校で統一して指導する。

【中学校】

- ・【L】自分に自信をもつとともに、自己を見つめ個性を伸ばそうとする態度を身に付け、自分と自分を取りまく社会との関わりを理解し、よりよい社会を創ろうとする。
- ・【G】異なる文化をもつ人々が共生する社会を受容するとともに、日頃から考えや習慣の異なる人に対して、寛容的及び協力的な態度で生活しようとする。
- ・【C】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- ・「コミュニケーション」要素において、東川の児童生徒の目指す姿である「国際社会に活躍する人材の育成」のために、自分の住む地域である東川町や日本文化を理解するとともに、他国の文化や自分と異なる人々と共に生きていくために必要なコミュニケーションツールである外国語（英語）をしっかりと定着させる必要がある。したがって、基本的に現行の外国語科の年間指導計画を活用する。
- ・各単元（各Unit）の「やり取り（話すこと・聞くこと）場面」において、「JETプログラムスタッフ」、「日本語学校の生徒」、「英語が話せる日本人」などをできるだけ活用する。そのことにより、日頃から考えや習慣の異なる人に対して、寛容的及び協力的な態度を身に付けられるのではないかと考えた。（【G】に関わる多文化共生）
- ・単元ごとに【L】、【G】に位置付けられると考えられる部分を表記する。そのことにより、地域素材や人材など、東川ならではの取組となると考えた。

【高等学校】

- ・【L】社会における自分の担う役割や責任、自分のもつ可能性を自覚し、自己肯定感を高め、学びや協働に向かう積極性をもっている。
- ・【G】多文化共生社会を受容し、自らその形成者として共に生き、共に課題に取り組もうとする参画と貢献の姿勢がある。
- ・【C】他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、言語や文化に対する関心をもっている。
- ・小学校との連携を図り、英語の書き方指導や正しい発音指導などを行うことで、教える立場という相手のことを考えた言動を身に付けることができる。

②人材活用について

- ・『グローブ(Globe)』の授業において、東川町在住のALT、国際交流員(CIR)、スポーツ国際交流員(SEA)、留学生等をゲストティーチャーとして全校種において授業で活用する。
- ・幼稚園では、カリキュラムに基づきALT主導の下、歌やゲームなどの活動を通して、英語や他国の人々に触れることで、外国語に慣れ親しみ感覚的に外国を感じることができると考えた。
- ・小学校では、HRT、JTE、ALTによる定期的な打合せ会議を設定し、外国語活動の全時間にALTを活用できるように進めている。さらに、一単位時間内のそれぞれの学習内容に応じて役割を明確にすることにより、児童の実態に即した効果的な資料や教材を作成し、

充実した授業を展開できると考えた。

- ・中学校・高等学校では、各単元の終末場面において、外国語を活用する必然性を生むために、ALTに加えCIR、SEAを活用し、外国語を使って、「伝えたい」、「伝わってうれしい」という充実感をもたせることができると考えた。

④ 校種間交流について

- ・幼・小連携として、幼稚園年長と小学校1、5学年との授業交流を実施する。特に、1年生との交流では、外国語活動を取り入れる。その際に、共通したクラスルーム・イングリッシュを活用し、英語を通して交流を図る。
- ・小・中連携として、中学校の英語教員による各小学校への乗り入れ授業を実施する。
- ・小・高の交流を行い、教えてもらう立場と教える立場を明確にした活動を進める。
- ・中学校や高等学校では、様々な国の人々との交流を盛んに行っており、今年度は、中学校でフィンランドの人々との交流を行い、高校でタイの人々との交流を行うなど、文化の違いを理解する機会となった。今後、カリキュラム作成に当たり、こうした交流をより効果的に取り組むことができると考える。

(2) 研究の経過

| | |
|-------------|---|
| <p>第1年次</p> | <p>新教科『グローブ(Globe)』推進のための組織づくりとカリキュラム作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発学校指定の4年間を見通した研究の骨子の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・研究組織(グローブ推進チーム、運営指導委員会)の設置 ・各学校、関係機関における研究の方向性(創設の目的、仮説等)の共通理解及び連携の明確化 ・研究計画(内容、方法、評価)の作成 ○ 創設教科『グローブ(Globe)』のカリキュラム編成 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校種間における接続を意識したカリキュラムの作成 ・『グローブ(Globe)』における3要素構成の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル」要素：自国の文化や伝統に根差した自己の確立 「グローバル」要素：多様な異文化を受容し、共生することのできる態度の育成 「コミュニケーション」要素：文化の異なる人々との外国語(英語)をツールとしたグローバル社会で求められる円滑なコミュニケーション能力の育成 ・コミュニケーション要素(外国語活動、外国語科)の系統的(幼・小・中・高)な指導方法の検討 ・小・中・高の関連及び児童生徒の実態に即した3要素一体のCAN-DOリスト、指導資料及び教材の作成 ・外国人の有効的活用場面の検討 ○ 評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、学校、学校関係機関、保護者地域住民等による評価の在り方の検討 ・評価の観点、評価方法の検討 ・グローブ推進チームと運営指導委員会による評価や指導に基づく第1年次の成果と課題のまとめ及び第2年次以降の計画の修正 ○保護者、地域への啓発・周知 |
| <p>第2年次</p> | <p>新教育課程の先行実施及び『グローブ(Globe)』カリキュラムの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに基づく実践と課題の明確化、改善 ・3要素の評価の観点、評価規準の見直し ・コミュニケーション要素(外国語活動、外国語科)における小・中連携による系統的な指導の実施及び5領域の評価 ・指導資料、教材の検証と改善、改訂 ・東川町在住の外国人(CIR、SEA、ALT等)の積極的活用 ○ 実践研究発表会開催に向けての準備 |

| | |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・第3年次・第4年次における公開研究会開催の計画、準備 ○ 評価の実施 ・全国学力・学習状況調査、自己評価、外部評価、英語検定各級取得率比較、質問紙調査による評価 ・第2年次の成果と課題のまとめ及び第3年次以降の計画の修正 |
| 第3年次 | <p>『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施・評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・3領域における、幼・小と中・高の滑らかな接続の在り方の研究 ・コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び4技能の評価 ○ 実践研究発表会（プレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校における授業公開 ・幼稚園における外国語活動の公開 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、自己評価、外部評価、英語検定各級取得率比較、質問紙調査による評価 ・第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成 ○ 指導資料の作成 |
| 第4年次 | <p>新教育課程の完全実施及び『グローブ(Globe)』研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・3要素における、幼・小・中・高の有機的な連携についてのまとめ ・コミュニケーション領域における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び4技能の評価 ・他地域での『グローブ(Globe)』導入及び普及についての検討 ○ 研究実践発表会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校における授業公開 ・幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開 ○ 英語を用いてコミュニケーションを図る体験の場の設定 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、自己評価、外部評価、質問紙調査による評価 ・児童生徒、教員、関係機関、地域等の意識調査及び分析 ・成果と課題のまとめ及び一般化のための提案（研究報告書の作成） ○ 研究開発学校指定後における『グローブ(Globe)』の方向性の検討 |

(3) 評価に関する取組

| | |
|------|---|
| 第1年次 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の授業後の振り返りシート、意識（質問紙）調査、パフォーマンス（行動観察）等による実態の把握及び分析 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・新教科創設に係る運営指導委員会の指導・助言（8月） ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析（11月） ・カリキュラム編成に係る運営指導委員会の評価・指導・助言（1月） ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高の教員による意識（質問紙）調査の実施（7月） |
| 第2年次 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・「読み」、「書き」に関するテストの実施 ・中学校、高等学校入学時における英語テストの実施 ・小学校、中学校における児童英検、英検の実施（第4年次まで継続） ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析及び経年比較（11月） ・運営指導委員会の評価・指導・助言（1月） ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度における意識（質問紙）調査の継続的な実施（6月） |
| 第3年次 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施及び分析 |

| | |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・「読み」、「書き」に関するテストの実施 ・中学校、高等学校入学時における英語テストの実施 ・小学校、中学校における児童英検、英検の実施（第4年次まで継続） ○ 公開研究会（プレ研）実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし、次年度への改善につなげる。 |
| 第4年次 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施、分析及び検証 ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・「読み」、「書き」に関するテストの実施 ・中学校、高等学校入学時における英語テストの実施 ・小学校、中学校における児童英検、英検の実施（第4年次まで継続） ・各評価の4年間の集積データのまとめ ・研究報告に係る運営指導委員会の評価・指導・助言 ○ 研究実践発表会実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・実践研究発表会を開催し、本研究4年間の成果と課題を明らかにし、まとめを行う。 |

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

①児童・生徒への効果

【幼稚園】

月1回の外国語活動において、英語に触れたり様々な国の人々と関わったりする機会を設定したことにより、英語への抵抗がなく、楽しく活動することができた。また、英語を聞き取る力も付いてきている。

【小学校】

新教科『グローブ(Globe)』は、カリキュラム検討の段階であるが、小学校外国語活動において授業改善を図ったことにより、外国語に対する関心が高まっている。HRTとALTが連携して授業を展開する中で、英語によるコミュニケーション能力を付けるための様々な活動に工夫を講じたことにより、外国語に慣れ親しみ、楽しくやり取りをすることが増えてきた。また、中学校外国語教員による各小学校での外国語活動の授業を実施することができた。このことにより、児童が中学校の英語の楽しさを知るなど、中学校外国語への不安が軽減した様子が見られた。

【中学校】

新教科『グローブ(Globe)』は、カリキュラム検討の段階であるが、多くの生徒が英検2級、準2級、3・4・5級を取得するなど、高い水準で英語が身に付いていると考えている。

【高等学校】

東川町内での進学率は、全体の10%程度であり、学級に4名前後の割合であることから、幼稚園から高等学校までの学習の連続性をもたせることは難しい現状を踏まえ、高等学校においては、特に東川町の豊富な地域教材を活用するとともに、様々な国の人々と交流できる恵まれた環境を生かして、幼稚園、小・中学校との連携を図った新教科『グローブ(Globe)』を展開することができた。

②教職員への効果

外国語活動・外国語の授業に対して、校外研修や研究授業を活用し、授業改善を図ろうとする教員が増えてきている。課題としては、校内研修が不十分であり、研究開発に向けた認識に教員間の差が見られる。

③保護者への効果

国際教育推進に対して、特に小学校において関心が高まりつつある。運動会競技にALTが参加したり学習発表会の劇の中で英語が使われたりするなど、『グローブ(Globe)』を通じた交流の機会が増えることへの期待が高まっている。

(2) 実施上の問題点と今後の課題 (●問題点、☆課題)

- 幼稚園、小・中学校、高等学校の校種間の連携が不十分である。
- 幼・小及び小・中の滑らかな接続について、幼小連携事業や中一ギャップ未然防止事業などに取り組んでいるが、『グローブ(Globe)』においては、幼稚園、小・中学校、高等学校が単に連携するだけでなく、それぞれの校種でのねらいや指導内容を踏まえ、系統的なつながりを考えていかなければならない。
- カリキュラム作成については、各学校でのこれまでの実践に基づき、各学年のカリキュラムにおいて、東川町や世界の国々を意識した外国語活動のカリキュラムを検討してきたが、校種間における有機的な関連を図るまでには至っていない。
- 研究開発の取組については、本町の全教職員の共通理解が図られていない現状がある。各学校で研修は行っているものの、教職員の認識に差が見られる。
- ☆ 外国語活動、外国語科の授業改善について検討する必要がある。特に、各小学校での学習内容、学習指導、評価方法など、共通に進めていくべき内容を検討する必要がある。
- ☆ 各学校、各学年における各教科等を横断的に捉えた年間指導計画を作成し、新教科『グローブ(Globe)』との関連した学習内容をピックアップすることにより、学校全体で国際教育推進を進める必要がある。特に中学校、高等学校では、担任と外国語担当教員だけでなく全教職員で意識して取り組む必要がある。
- ☆ 新教科『グローブ(Globe)』の実践を通して、研究授業を重ねていき、その都度、修正を図り、研究協議が設定できない場合においても、授業者に意見や感想が伝わる工夫をする必要がある。
- ☆ 幼稚園、小・中学校で共有できるクラスルーム・イングリッシュについて検討していく必要がある。
- ☆ 通知表や指導要録などにおける評価について検討する必要がある。

東川町立東川小学校（外 3 小学校） 教育課程表（平成 30 年度）

| | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | 道徳 | 外国語活動 | 外国語 | 総合的学習の時間 | 特別活動 | グローブ | 総授業時数 |
|--------|----------|-----|------|-----|--------------|-----|------|-----|-----|-----|------------|-------------|---------------|------|---------------|----------------|
| | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 | 体育 | | | | | | | |
| 第 1 学年 | 306 | | 136 | | 87 (-15) | 68 | 68 | | 102 | 34 | | | | 34 | 35 (+35) | 870 (+20) |
| 第 2 学年 | 315 | | 175 | | 90 (-15) | 70 | 70 | | 105 | 35 | | | | 35 | 35 (+35) | 930 (+20) |
| 第 3 学年 | 245 | 70 | 175 | 90 | | 60 | 60 | | 105 | 35 | 0 (-35) | | 35 (-35) | 35 | 70 (+70) | 980 (+35) |
| 第 4 学年 | 245 | 90 | 175 | 105 | | 60 | 60 | | 105 | 35 | 0 (-35) | | 35 (-35) | 35 | 70 (+70) | 1015 (+35) |
| 第 5 学年 | 175 | 100 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 60 | 90 | 35 | | 0 (-70) | 35 (-35) | 35 | 105 (+105) | 1015 (+35) |
| 第 6 学年 | 175 | 105 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 55 | 90 | 35 | | 0 (-70) | 35 (-35) | 35 | 105 (+105) | 1015 (+35) |
| 計 | 1461 | 365 | 1011 | 405 | 177 (-30) | 358 | 358 | 115 | 597 | 209 | 0 (-70) | 0 (-140) | 140 (-140) | 209 | 420 (+420) | 5825 (+180) |

※第 1・2 学年については、余剰時間より 20 時間を新教科『グローブ(Globe)』に充てるため、組み替えた時数の合計と『グローブ(Globe)』の合計は一致しない。

別紙 1

⑤ 東川町立東川中学校 教育課程表 (平成30年度)

| | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | 道徳 | 特別活動 | 総合的な学習 の時間 | グループ | | 総授業時数 |
|------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-------------|---------|------|---------------|---------------|--|-------|
| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 保健体育 | 技術家庭 | 外国語 | | | | | | |
| 第1学年 | 140 | 105 | 140 | 105 | 45 | 45 | 105 | 70 | 0 (-140) | 35 | 35 | 30 (-20) | 160 | | 1015 |
| 第2学年 | 140 | 105 | 105 | 140 | 35 | 35 | 105 | 70 | 0 (-140) | 35 | 35 | 50 (-20) | 160 | | 1015 |
| 第3学年 | 105 | 140 | 140 | 140 | 35 | 35 | 105 | 35 | 0 (-140) | 35 | 35 | 50 (-20) | 160 | | 1015 |
| 計 | 385 | 350 | 385 | 385 | 115 | 115 | 315 | 175 | 0 (-420) | 10 5 | 105 | 130 (-60) | 480 (+480) | | 3105 |

別紙 1

⑥ 東川高等学校 教育課程表 (平成30年度)

| | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | | グローバル 時間 | 総合的な学習の 時間 | 特別活動 | 総授業時数 |
|---|----------|----------------------|----------------|----------------|--|--------|--|-----------------------------|--------|-----------------------------------|-------------|---------------|--------------|-------------------------------|
| | 国語 | 地歴 公民 | 数 学 | 理 科 | 外国 語 | 芸 術 | 家 庭 | 体 育 | 情 報 | 商 業 | | | | |
| 第1学年 | 140 | 105 | 140 | 105 | 0 (-140) | 70 | 70 | 140 | | 35 | 150 | 70 | 160 (-10) | 1185 (0) |
| 第2学年 | 105 | 105 | 140 | 105 | 0 (-140) | 70 | 70 | 140 | | 70 | 150 | 70 | 160 (-10) | 1185 (0) |
| 第3学年 | 105 | 140 | 105 | 140 | 0 (-93) | 70 | | 70 | 70 | | 100 | 35 | 85 (-7) | 920 (-10) |
| 第3学年 次選択 2単位 3単位 を各1つ 選択 | | 時事 問題 研究 70 | 数学 B 105 | 生物 研究 70 | 英語 表現 I 105 英語 会話 70 | | 子 ど も の 発 達 と 保 育 105 | ス ポ ー ツ A 70 | | 電 卓 基 礎 計 算 105 | | | | 175 (2単位・3 単位選択の 合計) |
| 計 | 350 | 350 | 385 | 350 | 0 (-373) | 210 | 140 | 350 | 70 | 105 | 410 | 175 | 430 (-25) | 3465 (-10) |
| 選択科目 を履修し た場合 | | 420 | 490 | 420 | 175 | | 245 | 420 | | 210 | | | | |

学校等の概要

①

1 学校名、校長名

ひがしかわちようりつひがしかわしょうがっこう
東川町立東川小学校 校長 前田 昭彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地 (Tel 0166-82-2425 Fax 0166-82-4711)

3 学年別児童数、学級数

| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | 第5学年 | | 第6学年 | | 計 | |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 |
| 63 | 2 | 58 | 2 | 47 | 2 | 60 | 2 | 62 | 2 | 60 | 2 | 350 | 12 |
| 病1 | | 知1情1 | | 知3情3 | | 情2 | | 知4言1 | | 情1病1 | | 18 | 4 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 22 | | 1 | | 1 |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| | | | 2 | | 28 | | | | |

②

1 学校名、校長名

ひがしかわちようりつひがしかわだいいちしょうがっこう
東川町立東川第一小学校 校長 岡本 美雪

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西10号北24番地 (Tel 0166-82-2751 Fax 0166-82-5143)

3 学年別児童数、学級数

| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | 第5学年 | | 第6学年 | | 計 | |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 |
| 4 | 1 | 6 | 1 | 4 | | 3 | 複式1 | 5 | | 5 | 複式1 | 27 | 4 |
| | | | | | | | | | | 知的1 | 1 | 1 | 1 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 5 | | 1 | | |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| 2 | | | 1 | | 11 | | | | |

③

1 学校名、校長名

ひがしかわちようりつひがしかわだいにしょうがっこう 東川町立東川第二小学校 校長 大垣 秀彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北32番地 (Tel 0166-82-3019 Fax 0166-82-5170)

3 学年別児童数、学級数

| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | 第5学年 | | 第6学年 | | 計 | |
|------|-----|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 |
| 9 | 1 | 7 | 1 | 9 | | 4 | 複式1 | 13 | | 6 | 複式1 | 48 | 4 |
| | | | | 知1緒1 | 知1緒1 | | | 緒1 | 緒1 | 知1 | 知1 | 4 | 2 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 6 | | 1 | | |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| 2 | | | 1 | | 12 | | | | |

④

1 学校名、校長名

ひがしかわちようりつひがしかわだいさんしょうがっこう 東川町立東川第三小学校 校長 南部 和紀

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町東8号南1番地 (Tel 0166-82-3015 Fax 0166-82-5183)

3 学年別児童数、学級数

| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | 第5学年 | | 第6学年 | | 計 | |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 |
| 3 | | 1 | 複式1 | 4 | | 4 | 複式1 | 3 | | 6 | 複式1 | 21 | 3 |
| | | | | | | | | | | 知1 | 知1 | 1 | 1 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 4 | | 1 | | |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| 1 | | | 1 | 1 | 10 | | | | |

⑤

1 学校名、校長名

ひがしかわちやうりつひがしかわちやうがっこう
東川町立東川中学校 校長 尾崎 朋子

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町1丁目5番1号 (Tel 0166-82-2428 Fax 0166-82-2348)

3 学年別生徒数、学級数

| 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 計 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-------|-----|-----|
| 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 |
| 77 | 3 | 79 | 3 | 75 | 3 | 231 | 9 |
| 知1、情2、言1 | 言1 | 知1、情1 | 知1 | 情3、病1 | 情1、病1 | 10 | 4 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 22 | | 1 | | |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 30 | | | | |

⑥

1 学校名、校長名

ほっかいどうひがしかわこうとうがっこう
北海道東川高等学校 校長 渡辺 文貴

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町2丁目12番1号 (Tel 0166-82-2590 Fax 0166-82-2534)

3 課程・学科・学年別生徒数、学級数

| 課程 | 学科 | 第1学年 | | 第2学年 | | 第3学年 | | 第4学年 | | 計 | |
|-----|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| | | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 |
| 全日制 | 普通科 | 80 | 2 | 75 | 2 | 79 | 2 | | | 234 | 6 |
| 計 | | 80 | 2 | 75 | 2 | 79 | 2 | | | 234 | 6 |

4 教職員数

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 主幹教諭 | 指導教諭 | 教諭 | 助教諭 | 養護教諭 | 養護助教諭 | 栄養教諭 |
|----|-----|----|------|------|----|-----|------|-------|------|
| 1 | | 1 | | | 16 | | 1 | | |
| 講師 | ALT | SC | 事務職員 | 司書 | 計 | | | | |
| 1 | 2 | 1 | 4 | | 27 | | | | |

⑦

1 学校名、園長名

ひがしかわちょうりつひがしかわようちえん
東川町立東川幼稚園 園長 伊藤和代

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地 (Tel 0166-82-3400 Fax 0166-82-4660)

3 学年別幼児数

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5歳児 | 4歳児 | 3歳児 | 2歳児 | 1歳児 | 0歳児 | 合計 |
| 15 | 10 | 6 | | | | 70人 |
| 12 | 11 | 9 | | | | 7学級 |
| | | 7 | | | | |

4 教職員数

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|----|-----------|------|-----|
| 園長 | 副園長 | 事務長 | 室長 | 主任 | 教務 | 担任 | 特別支援教育支援員 | 事務職員 | 看護師 |
| 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 7 | 2 | 1 | 1 |
| 栄養士 | 調理員 | 公務補 | | | | | | | 計 |
| 1 | 4 | 1 | | | | | | | 22 |

平成29年度

研究開発実施報告書

第1年次

研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

平成30年3月

東川町立東川小学校 外6校（園）

| | | |
|---|------------------|-------|
| 1 | 東川町立東川小学校 外6校(園) | 29~32 |
|---|------------------|-------|

平成29年度 研究開発実施報告書

ア 研究開発の概要

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造や雇用環境は大きく、さらに加速度的に変化していくことが予想され、現在の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちにとって、予測困難な時代だといえる。少子化が進む中で我が国にとっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、様々な変化に適応し、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。グローバル化が急速に進展する中で、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたり様々な場面で世界の人々と多種多様に関わることが想定されており、コミュニケーション能力の向上が課題となっている。我が国では、外国語を日常的に使用する機会は限られているが、現在、学校で学ぶ子どもたちが卒業し活躍する社会や世界の舞台は、多文化・多言語の中にあり、国際的な協調と競争の環境にあることが予想される。そうした中で、国民一人一人が、様々な社会的・職業的な場面において、外国語を用いて互いの考えを伝え合い理解し合うことが一層重要になることが想定される。

北海道のほぼ中央に位置する東川町は、大雪山連峰「旭岳」の麓で、雄大な自然景観に恵まれ、豊かな水と肥沃な大地の恵みと共に生活できる地域である。写真甲子園開催地の「写真の町」として、また、日本初の公立日本語学校を開校するなど数多くの留学生を受け入れる「国際交流の町」として全国的に注目を浴びている。

学校教育においては、4名のALT (Assistant Language Teacher 外国語指導助手) による外国語活動や外国語の授業、3名のSEA (Sports Exchange Advisor スポーツ国際交流員) による体育や少年団活動及び部活動 (クロスカントリー、野球、バレーボール)、8名のCIR (Coordinator for International Relations 国際交流員) によるイベント参加や国際交流活動、さらには留学生との交流など、JETプログラム (The Japan Exchange and Teacher Program) スタッフ15名や日本語学校留学生による国際教育推進により、ネイティブ・スピーカーに接する態度や外国語を使う力が育ちつつある。

一方で、それぞれの国際教育活動の有機的なつながりや、学校間での連携、小学校における外国語活動と中学校の外国語科の接続、外国語教育における幼・小・中・高における連携が十分ではない現状が見られる。また、自然豊かで国際色に恵まれた環境におかれているものの、有効に活用したり効果的に場の設定をしたりすることができていない。

本町の子どもたちは、校内はもとより校外でも、挨拶を交わすことができ、明るく活発である。保育園・幼稚園を同じ施設内に設置している「幼児センター」や小学校4校、中学校1校、高等学校1校があり、教育環境は充実しているものの、主体的に人と関わろうとする態度は十分ではない。また、豊富な地域素材や多種多様な人材が整っているにも関わらず、地域の理解や国際教育の充実が十

分とは言えない。さらに、適切な言葉を使って相手と関わり伝え合うことにやや苦手意識がある。

そこで、自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていく子どもを育成したいと考え、以下の研究主題を設定した。

【研究主題】

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に適用するコミュニケーション能力の育成

【研究仮説】

国際教育を中核とした新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することにより、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

イ 研究開発の経緯

| 月 | 日 | WG (ワーキング・グループ) | 項目 | 研修内容など |
|----|----|-----------------|------|-------------------------|
| 4 | 25 | | 視察研修 | 幼児センター視察研修 |
| 5 | 16 | | 視察研修 | 日本語学校視察研修 |
| | 19 | | 研修会 | 東川中学校 授業交流 (英語) |
| 6 | 15 | | 視察研修 | 幼児センター視察研修 |
| | 21 | | | 第1回 研究推進委員会 |
| | 29 | ○ | | 第1回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 7 | 4 | | 研修会 | 東川第一小学校 授業研究会 (外国語活動) |
| | 6 | ○ | | 第2回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 13 | ○ | | 第3回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 19 | ○ | | 第4回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 8 | 21 | | | 第1回 研究推進連絡協議会 |
| | 24 | ○ | | 第5回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 28 | | | 第1回 運営指導委員会 |
| | 31 | ○ | | 第6回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 9 | 7 | ○ | | 第7回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 14 | ○ | | 第8回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 15 | | 視察研修 | 鹿追町幼小中高一貫教育研究大会 |
| | 21 | ○ | | 第9回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 28 | ○ | | 第10回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 10 | 5 | ○ | | 第11回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 12 | ○ | | 第12回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 15 | | 視察研修 | 寿都町 |

| 月 | 日 | WG (ワーキング・グループ) | 項目 | 研修内容など |
|----|-----|-----------------|------|--------------------------------|
| 10 | 19 | ○ | | 第13回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 26 | ○ | | 第14回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 30 | | 視察研修 | 徳島県鳴門市 |
| 11 | 2 | ○ | | 第15回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 9 | ○ | | 第16回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 11 | | 研修会 | 研修センター 授業公開 (小学校 外国語) |
| | 14 | | 視察研修 | 大分県安心院 |
| | 16 | ○ | | 第17回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 22 | | 研修会 | 東川第一小学校 授業研 (外国語活動) |
| | 24 | ○ | | 第18回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 28 | | | アンケート実施 |
| 12 | 30 | ○ | | 第19回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 1 | | 研修会 | 町教研研究大会 6年生公開授業 研究開発経過報告 |
| | 7 | ○ | | 第20回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 8・9 | | 視察研修 | 全国小学校英語活動実践研究大会札幌大会 |
| | 11 | | 研修会 | 小・高交流授業 |
| | 11 | | 研修会 | JICA北海道 国際理解教育指導者研修 |
| | 13 | | | ミニGlobe会議 中学校部会 |
| | 14 | ○ | | 第21回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 20 | | | ミニGlobe会議 中学校部会 |
| 1 | 21 | ○ | | 第22回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 28 | ○ | | ミニミニGlobe会議 (小学校部会) |
| | 9 | ○ | | 第23回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 10 | ○ | | 第24回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 2 | 15 | ○ | | 第26回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 25 | ○ | | 第27回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 1 | ○ | | 第28回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 8 | ○ | | 第29回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 15 | ○ | | 第30回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| 2 | 22 | ○ | | 第31回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 26 | | 研修会 | 第2回 研究推進連絡協議会 研究開発 先進地視察報告会 |
| 3 | 1 | | | 第2回 運営指導委員会 |
| | | ○ | | 第31回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 8 | ○ | | 第32回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |
| | 15 | ○ | | 第33回 ミニGlobe会議 (WGメンバー) |

ウ 研究開発の内容

(a) 教育課程の編成

| | | | | Globe 目標 目指す子ども像 | | |
|---------------|--|--|---------------|---|---|---|
| 領域 | 内容 | 指導の視点 | 評価の観点 | 幼稚園 | 小学校 | |
| Local | 自国の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。 | 自己理解 異文化理解 郷土理解 | 知識・技能 | 英語に親しむ 英語のゲームや歌を楽しむ | 自分の地域や国の自然や歴史、文化を理解し、よさを知ることができる。 | 自分の地域や国や文化の特色を |
| | | | 思考力・判断力・表現力 等 | | 様々な事象について自分の考えをもち、身の回りの事柄に対する公平な判断力を身に付けるとともに、自分自身のことや自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 | 自分を取りまく題について情報考え、問題解決して発表すると主体的に行動 |
| | | | 学びに向かう力・人間性 | | 集団活動に進んで参加するなど、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとするとともに、自分の地域や国の伝統や歴史、郷土を愛する心をもっている。 | 自分に自信をも見つめ個性を体身に付け、自分会との関わりを会を作ろうとする |
| Global | 多様な異文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。 | 自己理解 異文化理解 問題解決 相互依存 多文化共生 | 知識・技能 | 簡単な英語の指示を聞いて行動できる | 他国や他民族等の様々な文化について知るとともに、我が国と他国の文化の違いを理解することができる。 | 他国や他民族等や文化の背景を化も尊重するこ |
| | | | 思考力・判断力・表現力 等 | Yes、No や簡単なあいさつの言葉を自ら発することができる | 身の回りの事柄について問題意識をもち、その問題に積極的に関わり、仲間と協力しながら課題を解決し、分かりやすく発表できる。 | 世界が抱える多わりの事象とつら問題や課題をを探り、表現をとができる。 |
| | | | 学びに向かう力・人間性 | さまざまな国の人々に親しみをもつ 自分の好きな物、嫌いな物が言える | どの国、民族の文化でも尊重し、誰とでも公平に接するとともに、日頃から人との関わりを大切に、寛容的及び協力的な態度で生活していこうとする。 | 異なる文化をも会を受容するとえや習慣の異なで協力的な態度る。 |
| Communication | 文化の異なる人々との英語をツールとしたグローバル社会で求められる円滑なコミュニケーション能力を育成する。 | 自己理解 異文化理解 コミュニケーション | 知識・技能 | 友達と上手に関わりながら生活することができる 身の回りの友達や自然環境に関心をもつ 遊びの楽しさを友達と共感できる | 外国語の音声や文字、語彙、表現、構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、実際のコミュニケーションで活用できる基本的な技能を身に付けている。 | 外国語の音声や言語の働きなどに、これらの知むこと、話すこと、書くこと、実際のコミュニケーションで活用できる技能 |
| | | | 思考力・判断力・表現力 等 | 元氣よくあいさつや返事ができる 自分の思いを伝えることができる | コミュニケーションを行う目的や場所、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読み、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を身に付けている。 | コミュニケーション面、状況などに題や社会的な言で簡単な情報やり、これらを活用しあったりする |
| | | | 学びに向かう力・人間性 | | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。 | 外国語の背景に解を深め、聞きに配慮しながら用いてコミュニケーションとする。 |

| 中学校 | 高等学校 | 生涯 |
|--|--|--|
| 自分の地域や国の自然や歴史、伝統や文化の特色を理解することができる。 | 自分の地域や国の文化とその背景を理解し、伝統や文化の継承や新たな文化の創造に取り組むことができる。 | 自立して生活し、自分の地域や国に愛着をもつことができる。 |
| 自分を取りまく社会の様々な問題について情報をもとに広い視野で考え、問題解決に向けて表現を工夫して発表するとともに、自らの考えで主体的に行動することができる。 | 自己の確立に努め、社会に対する深い洞察力と健全な判断力を身に付け、様々な情報を基に公平に判断し、根拠をもって自分の意見を他者に述べるることができる。 | 自分の地域や国の伝統、文化に誇りと責任をもち、海外の人に積極的に紹介できる。 |
| 自分に自信をもつとともに、自己を見つめ個性を伸ばそうとする態度を身に付け、自分と自分を取りまく社会との関わりを理解し、よりよい社会を創ろうとする。 | 社会における自分の担う役割や責任、自分のもつ可能性を自覚し、自己肯定感を高め、学びや他者との協働に向かう積極性を持っている。 | 自分の地域や国の文化の継承や社会福祉に貢献しようとする。 |
| 他国や他民族等の様々な文化や背景の違いを理解し、どの国の文化も尊重することができる。 | 他国や他民族等の文化を尊重し、国際社会の多様性を知ること異なる価値観に対し理解を示すことができる。 | 異文化や世界情勢の情報を継続的に取り入れ、生活に生かすことができる。 |
| 世界が抱える今日的な課題を身の回りの事象とつなげて考え、そこから問題や課題を発見し、解決の方法を探り、表現を工夫して発表することができる。 | 国際社会における様々な課題を発見し、その解決に向けて多様な観点から思考・判断し、発信することができる。 | 世界の人々と助け合い、協力しながら課題を解決できる。 |
| 異なる文化をもつ人々が共生する社会を受容するとともに、日頃から考えや習慣の異なる人に対して、寛容的及び協力的な態度で生活しようとする。 | 多文化共生社会を受容し、自らその形成者として共に生き、共に課題に取り組もうとする参画と貢献の姿勢がある。 | 互いの違いを尊重し、良好な人間関係を積極的に構築しようとする。 |
| 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けている。 | 外国語の音声や文字、語彙、表現、構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いや言語の働き、役割を理解するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けている。 | 海外の人とでも自信をもってコミュニケーションを取ることができる。 |
| コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。 | 日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付け、聞いたり、読んだり話したりしたことを活用して、話したり、書いたりして発信することができる。 | 多くの情報や対話をもとに自分の考えを構築するとともに、公平な判断力ももち、自分の思いをどの世代・どの文化の人にも伝えることができる。 |
| 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手に配慮しながら、外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする。 | 他者を尊重し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、言語や文化に対する関心を持っている。 | 海外の情報に関心をもち、どんな文化の人とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとし、生涯にわたって学び続けようとする。 |

幼稚園 ALT年間授業計画

| Month (月) | 4 years (4歳) | 5 years (5歳) |
|------------------|--|---|
| April - 4 | <ul style="list-style-type: none"> 活動に参加し子どもたちと交流する。 季節の歌や制作を一緒に作る。 | <p>自分の住む国と世界について</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTの自己紹介 はじめて終わりのあいさつ (4月以降毎回) How do you feel? I'm good, happy, sad, sleepy, hungry, hot, cold How is the weather? It's snowy, rainy, cloudy, sunny, windy, stormy 様々なあいさつや握手、ハグなどのあいさつにもふれる 地図や国旗を用いて、自国や他国があることを知る 様々な人、言葉、文化があることを知り興味や関心を持つ |
| May - 5 | | |
| June - 6 | | <p>Colors/いろ</p> <ul style="list-style-type: none"> 色を知ろう (red, blue, green, yellow, orange, purple, brown, pink, white, black) いろいろに ルーレットゲーム (当たった色と同じ色のボールをもっていたら負け!) "Brown bear, Brown bear, What do you see?" をよもう! (えほん) ABCのうた |
| July - 7 | <ul style="list-style-type: none"> 活動のはじめに絵本・歌・手遊び・ダンスなどを行う。 活動に参加し子どもたちと交流する。 | <p>Foods/たべもの</p> <p>英語でフルーツバスケットをしよう (ゲーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 色と食べものを組み合わせて学ぼう (rice, soup, milk, water, banana, orange など) |
| August - 8 | | <p>Animals/どうぶつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の名前や鳴き声を知ろう (bear, deer, swallow, owl, ... 各クラスの動物たち, dog, cat, cow, rabbit...) 鳴き声を聞いて、動物を当てよう (ゲーム) |
| September - 9 | <ul style="list-style-type: none"> 活動のはじめに絵本・歌・手遊び・ダンスなどを行う。 活動に参加し子どもたちと交流する。 | <p>Body/からだ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の部位の名前を英語で聞こう (head, face, eye, ear, nose, mouth, hand, leg, hip...) タッチゲーム (先生の言った場所を触る) Head, Shoulder, Knee, and Toes (うた) |

| Month (月) | 4 years (4歳) | 5 years (5歳) | Month (月) |
|------------------|---|---------------|--|
| October - 10 | <ul style="list-style-type: none"> 活動のはじめに絵本・歌・手遊び・ダンスなどを行う。 | ハロウィーンの紹介 | Halloween/ハロウィーン <ul style="list-style-type: none"> ハロウィーンの紹介 Trick or Treat ごっこ遊び(体験) |
| November - 11 | <ul style="list-style-type: none"> 活動に参加し子どもたちと交流する。 | | ゆっくり・はやく・とまって! <ul style="list-style-type: none"> Slowly, Fast, Stop, Jump, Sit down, Stand up... 音楽や楽器に合わせて体を動かす(ゲーム) 速さを変える、動物に変身する |
| December - 12 | ※絵本などの他にクイズで単語にふれる (It's a quiz!) (What's this?) | クリスマスの紹介 | Christmas/クリスマス <ul style="list-style-type: none"> Santa Claus, Candy cane, Reindeer, Snowman, Christmas tree クリスマスソング(うた) Bomb game (音楽が止まったとき、プレゼントを持っていたら負け!) |
| January - 1 | <ul style="list-style-type: none"> 歌や絵本の中でふれたことのある単語などにふれる。 | <節分> | Numbers/すうじ(1 - 10) <ul style="list-style-type: none"> 形と数字を組み合わせて学ぼう。(例: この絵にはさんかくがいくつかくれているかな? など) One to ten サイコロの目と同じ数だけ友だちを集めよう!(ゲーム) 10人のインディアン(うた) |
| February - 2 | | <ひなまつり> | Self-introduction/じこしょうかい <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介リレーをして遊ぼう(ゲーム) |
| March - 3 | | ・歌「うれしいひなまつり」 | Hello My name is... Nice to meet you Thank you/See you Goodbye song |

Globe 年間指導計画 一覧（幼稚園・小学校）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|---|--|--|---|--|---|
| 幼稚園（年中） | 英語に親しむ | | | 英語の歌や絵本を楽しむ | | |
| 幼稚園（年長） | 英語に親しもう 自分の住む国と世界について | | 英語の歌を楽しもう color/色 | 友達と上手に遊ぼう food/たべもの | 英語のゲームを楽しもう animal/どうぶつ | 英語のゲームを楽しもう body/からだ |
| 1年（35） | ①ともだち いっぱい（6） Hello, Nice to meet you. 自己紹介をしよう | ②りんごを5ください（3） Five apples, please | ③スプリング（2） What's this? 春を見つけよう | ④サマー（2） What's this? 夏を見つけよう | ⑤あたみにタッチ（2） Touch your～. | ⑥オータム（6） Let's count 秋を見つけよう |
| 2年（35） | ①新しい先生とあいさつしよう（2） Hello, My name is～. 他の国や文化、趣味 | ②これは何？（5） What's this? ※ゲストティーチャーCR | ③時刻を教えよう（5） What time is it? 世界の日課表 | | ④好きな物を伝えよう！ 聞いてみよう！（6） Do you like～? ※日本語学校の生徒にインタビュー | |
| 3年（70） | ①あいさつをして友達になろう（5） Hello. Im～. 日本と外国とのあいさつの違い | | ②ごきげんいかが？ ジェスチャーで伝えよう How are you?（4） | ③数えて遊ぼう（8） How many～? ※世界の数の数え方を知る。 | ④すきなものを伝えよう I like blue.（6） 外来語について知る | ⑤何がお好き？ What do you like?（7） ※高学年に好きなものを尋ねる |
| 4年（70） | ①あいさつをしよう。自己紹介をしよう（6） ※世界のあいさつを知る。 | ②楽しもう、伝えよう。 日本の遊び、世界の遊び ※日本や世界の遊びについて知る。 | ③何曜日が好き？（3） Do you like 曜日？ | ④今、何時？（4） What time is it? | ⑤おすすめの文房具セットを作ろう（4） Do you have a pen? | ⑥アルファベット世界の文字。（9） ※日本語学校との交流 |
| 5年（105） | ①自己紹介をしよう！ 仲間を大切にしよう！（11） | | ②東川の祭りや世界の祭り（11） When is your birthday? ※東川の祭り ※JET、日本語学校の国のお祭り | ③夢の時間割を作ろう（11） What do you have on 曜日? ※世界の学校生活 | ④一日の生活を伝えよう（12） What time do you get up? ※世界の子どもたちの一日 | ⑤東川人材の有名人を紹介しよう（12） ※東川の有名人 |
| 6年（105） | ①自分も相手も大事にしよう（11） ※JET、日本語学校とのやり取り | ②日本のよさを再発見しよう（11） ※日本文化の紹介 ※外国の行事や食べ物 | ③わたしたちにできること（12） | ④ここが私の生きる場所（12） Loca 紹介マップ | ⑤ここから過去と未来を見つけよう（11） 自分史を伝え合おう | ⑥お互いを知ろう（11） ※ALT、CRと一緒にパラリンピックを体験しよう |

() カッコ内は時数

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間 |
|---|--|---|---|--|----|---------------|
| 英語の歌や絵本を楽しむ 元気よく挨拶 | | | | | | |
| 外国を感じよう halween/ハロウィーン | 英語を聞いて動いてみよう ゆっくりと・はやく・とまって | 英語の歌を楽しもう christmas/クリスマス | 友達と上手に遊ぼう number/すうじ | 英語で自己紹介 self-introduction/じこしょうかい | | ⑩外国っておもしろい(4) |
| | ⑦きょうはなんようび?(2) What day is today? | ⑧ウィンター(5) 冬を見つけよう Let's make snowmen. 日本と外国の雪だるま | | ⑨えいごでできるよ(3) | | ⑩外国っておもしろい(4) |
| ⑤できることを紹介しよう(7) I can play~. ※日本語学校の生徒と交流 | | ⑥伝統行事を知ろう!(2) ※日本の行事 ※外国の行事 | ⑦ファーストフード店で買い物をしよう(4) | | | ⑩外国っておもしろい(5) |
| ⑥アルファベットとなかよし(9) Please. Here you are. | ⑦カードを送ろう。This is for you. (9) クリスマスカードを作ろう | ⑧クイズ大会をしよう What's this? (9) ※日本語学校との交流 | | ⑨1年生に紹介しよう Who are you? (9) ※1年生に英語で紹介 | | ⑩外国っておもしろい(4) |
| ⑦おいしいよ! 東川の給食(11) What do you want? ※東川のおすすめ給食 ※インターナショナル給食 | | ⑧学校のお気に入りの場所(6) Go straight/Turn right/left | ⑨自分の一日。みんなの一日(11) ※日本語学校との交流 | | | ⑩外国っておもしろい(4) |
| ⑥行きたい国やその国で自分ができることを考えよう(10) What do you want to go? ※〇国の親善大使としてプレゼンしよう | | ⑦宝物はどこにあるでしょうか?(12) ※フィンランドの小学校との交流 | ⑧世界の料理と地元の料理(12) ※日本の伝統料理と東川の特産品 ※外国の伝統料理 | ⑨あこがれの人の人(12) ※日本のHERO ※JETにインタビュー | | ⑩外国っておもしろい(2) |
| | ⑦それぞれの思い出を振り返ろう(11) 思い出のアルバムを作ろう 外国の学校行事を知ろう | ⑧将来の夢について(12) ゲストティーチャーの海外の仕事の話 | | ⑨中学校生活に向けて(12) 高校との交流 | | ⑩外国っておもしろい(2) |

| 学習期 | | | |
|-------|--|---|--|
| G bbe | | | |
| | 中 1 【160】 | 中 2 【160】 | 中 3 【160】 |
| 4 月 | <p>英語力診断テスト① Hi, English 小学校の振り返り③ Unit0 アルファベット④</p> | <p>オリエンテーション① 英語力診断テスト① Unit0 My Spring Vacation Show and Tellをしよう④ ALT・CIRに春休みの思い出を紹介する 6】</p> | <p>Unit0 Countries around the World ② オリエンテーション 6】</p> |
| 5 月 | <p>Unit1 はじめまして I am Ellen Baker. You are Ando Saki. Are you from New York? ⑨ ALT・CIRとごあいさつ 6】</p> | <p>Unit1 A Friend in a Sister School This pen was 150 yen last week. / I was looking for my pencil case. / You look happy. アメリカと日本の文化の違い 6】 Daily Scene1 日記を書こう⑫ 東川町での出来事を英文で伝える 1】</p> | <p>Unit1 Pop Culture Then and Now This painting is loved by many people./ Was this picture painted by the same person?/ This idea makes me happy.⑧ ミニディスカッション① 1】 Daily Scene1 食事の会話② Presentation1 日本文化紹介④</p> |
| | <p>Unit2 学校で This is my pen. That is my pen. Is that an amusement park? This is Alex. He is my friend. ⑫ 東川の有名人の紹介 1】 世界の有名人の紹介 6】</p> | <p>Unit2 A Trip to the U.K. I am going to visit the U.K. next week. / Show me your passport, please. / People call it Big Ben. Daily Scene2 ていねいをお願い 6】 ⑩⑫</p> | <p>Unit2 From the Other Side of the Earth⑧ 6月まで I have lived in Japan for a month./ He has lived in Japan for a month./ How long have you known him?/ The Amazon has been important for many years. ミニディスカッション① 1】 Daily Scene2 手紙②</p> |
| 6 月 | <p>Unit3 わたしの好きなこと I like math. / Do you play the piano? / I do not play baseball. Listening Activity⑩ 日本と外国の習慣の比較 6】</p> | <p>Unit3 Career Day I greet customers to welcome them. / I want to be a chef. / I have many things to do. Daily Scene3 外国へメール 6】 Presentation1 将来の夢 6】</p> | <p>Unit3 Fair Trade Event⑧ Have you ever heard of "fair trade"?/ I have just looked at the prices./ Have you looked at the price yet?/ I am surprised to hear that. ミニディスカッション① 1】</p> |
| | <p>Unit4 ホームパーティ I want a lemon. / How many rabbits do they have? Take a doggy bag. / Let's use it. Listening Activity ⑨ Presentation1自己紹介 ② 日本語学校との交流 1】</p> | <p>I want to be a doctor. / I'm interested in health. / I want to treat sick people. To be a doctor, I read books about medicine every day. ⑩⑫</p> | <p>Daily Scene3 さそい② まとめと練習① ② 学び方コーナー① ①</p> |
| 7 月 | <p>Unit5 学校の文化祭 What is this? / The curry is delicious. / What do you have for breakfast? Daily Scene1 体調をたずねる⑩ 日本と外国の食の文化の比較 6】</p> | <p>Let's read1 The Carpenter's Gift④</p> | <p>Presentation2 修学旅行 ④ 1】</p> |
| | <p>Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia. / Does Haruki live near here? / Haruki does not talk about animals. Daily Scene2 電話の会話⑬ 10月前半も兼ねる オーストラリアについて 6】</p> | <p>Unit4 Homestay in the United States I have to speak English here. / I will show you some pictures tomorrow. / You must help your mother. / You must not eat too much. Daily Scene4 電話の会話⑬</p> | <p>Let's Read1</p> |
| 8 月 | | | |
| 9 月 | | | <p>Unit4 To Our Future Generations ⑧ I know how to protect myself./ It is necessary for us to prepare for disasters./ I want you to pass on the memories. ミニディスカッション① 1】 Daily Scene4② 道案内 6】</p> |
| | | | |

| 学習期 | | | |
|-------|--|--|---|
| G bbe | | | |
| | 中1【160】 | 中2【160】 | 中3【160】 |
| 10月 | Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ Who is this girl? / What time is it? / Which do you speak at home, English or Portugueses? / Daily Scene3 グリーティングカード⑨ ブラジルについて ⑥ | Unit5 Universal Design If you are interested, we will send you a catalog. / I think that baseball is interesting. When you are busy, I will help you. / I opened the window because it was hot. Daily Scene5 道案内⑭ 東川町の福祉 外国の福祉 外国のユニバーサルデザインを学ぼう ① ⑥ ⑮ | Unit5 Living with Robots-For or Against⑧ The boy playing the guitar is my brother./ The language used in Australia is English./ I know what you mean./ so...that~/ too...to~ Short discussion② Daily Scene5② 電話の会話 ミニディスカッション① ⑥ |
| 11月 | Unit8 イギリスの本 Where is my dictionary? / Whose book is that? / That is Kota. Do you know him? Daily Scene4 ウェブサイト ⑫ イギリスについて ⑥ 日本文化を伝えよう ① ⑧ ⑮ | Unit6 Rakugo in English There is a cushion on the stage. / Is there a special stage set? / We enjoyed listening to rakugo. / Playing soccer is fun. Daily Scene6 詩⑭ Presentation2 町紹介 ① 東川町の魅力を再発見し、外国人向けのパンフレットを作成しよう ⑥ ⑧ | Unit6 Striving for a Better World⑧ This is a book I bought from home./ Deepa is a student who likes music very much./ This is a movie that[which] makes people happy./ This is a book that[which] she wrote last year. Daily Scene6② レポート まとめと練習① 学び方コーナー① ミニディスカッション① ⑥ Short discussion ・テーマ決め① ・調べ② ・short discussion② ・調べ② |
| 12月 | Unit9 チャイナタウンへ行こう Kota is drinking water now. / Are you taking pictures? / What are you doing? / Don't ask anyone. / Be careful. Daily Scene5 道案内 Presentation2一日の生活 ⑮ 中国について ⑥ | Let's read2 Try to Be the Only One④ | Short discussion ・発表練習① ・発表① ・自分の考えを書く① ・Activity① ・まとめ① |
| 1月 | Unit10 あこがれのボストン Haruki can sleep anywhere. / Can you skate? / When can you climb Mt. Fuji? Daily Scene6 ちょっとお願い Presentation2一日の生活⑮ アメリカについて ⑥ | Unit7 The Movie Dolphin Tale The dolphin is larger than the tuna. / The blue whale is the largest of all animals. / This movie is more popular than that one. / This movie is the most popular in Japan. / Miho is my best friend. / Miho swims as fast as Yuji. Daily Scene7 買い物 Presentation3 好きなこと・もの ⑥ My favorite comic is... ? | Let's Read2⑤ The Green Door |
| 2月 | Unit11 思い出の一年 I watched TV yesterday. / I came to school early this morning. / Did you travel this winter? Daily Scene7 絵はがき Presentation3 思い出の行事⑭ 英語でスピーチ ① | Let's read3 Cooking with the Sun③ | Let's Read3⑥ An Artist in the Arctic |
| 3月 | Let's read3 Cooking with the Sun③ タイ語学留学生との対面の集い① | Let's read3 Cooking with the Sun④ タイ語学留学生との対面の集い① | タイ語学留学生との対面の集い① |

| | | |
|--------------|---------------|---------------------------|
| 日本の文化と比較しよう! | 日本と外国の福祉を知ろう! | 世界の今日的課題から自分たちにできることを探そう! |
|--------------|---------------|---------------------------|

Globe 年間指導計画 一覧（高等学校）

【記載方法】

- 期（Ⅰ～Ⅳ）、学習内容、学習するコミュニケーション様式（文法事項や特定表現など）、「ローカル」に分類されるテーマ（「L」の形で記載）および「グローバル」に分類されるテーマ（「G」の形で記載）、そして配分する単位数の5つの項目で記載した。
- 中学校の復習は、その後に習うコミュニケーション英語の文法事項および生徒に取り組ませたい活動に対応する配列とした。
- 以下の例に従って略した記載をした。
例）英語コミュニケーションⅠのレッスン1：EC-1/L1
- 「コミュニケーション」及び「ローカル／グローバル」の欄内に、その活動が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「学びに向かう人間性」のいずれの観点につながるのかを適宜記載した。記載方法はそれぞれ【知】、【思】、【人】とした。

【第1学年】

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル／グローバル | 単位 |
|---|-----------------------------|--|---|----|
| Ⅰ | 中学校の復習 1 | be 動詞・一般動詞 疑問文【知】 | — | 6 |
| Ⅱ | EC-I/L1 慶良間諸島の海 | be 動詞の文と一般動詞の文【知】 | L：慶良間諸島の海について知る【知】 | 7 |
| Ⅲ | Globe 1 自分の地域の誇れるものを見つける | 【情報交換】 Our town is/has ～ など 【知】【思】 | L：東川町の誇りといえるものについて考える【思】【人】 | 1 |
| Ⅰ | 中学校の復習 2 | 進行形【知】 | — | 1 |
| Ⅱ | EC-I/L2 クールジャパン | Yes/No 疑問文 進行形【知】 | L + G：海外からの目に、何が日本独特と映るのかを知る【知】 | 7 |
| Ⅲ | Globe 2 海外から見た日本・東川を知る | 【関係構築】 because ～ 【知】【思】 | L + G：海外からの人に、日本や東川について独特であると印象を受けたものを教えてもらう【知】【人】 | 1 |
| Ⅰ | 中学校の復習 | 過去形、助動詞【知】 | — | 2 |
| Ⅱ | EC-I/L3 メキシコ料理 | 過去形 助動詞【知】 | G：海外の料理について知る【知】 | 8 |
| Ⅲ | Globe 3 食べ物から見る文化の違いを知る | 【関係構築】 We eat/grow など 【知】【思】 | L + G：日本と海外双方で、食べ物と文化がどのようなつながりを持っているのか考える【知】【思】【人】 | 1 |
| Ⅰ | 中学校の復習 | 助動詞【知】 | — | 1 |

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|-----|-------------------------------|--|--|----|
| I | 中学校の復習 | 基本 5 文型【知】 | — | 5 |
| II | EC-I/L4 オリンピック | I think that ~ 第 4・5 文型【知】 | G：近代オリンピックの始まりと、 パラリンピックの取り組みについて知る【知】 | 8 |
| I | 中学校の復習 | 不定詞【知】 | — | 3 |
| II | EC-I/L5 マダガスカル島のバ オバブ | 不定詞【知】 | G：マダガスカル島のバオバブを取り 巻く現状について知る【知】 | 8 |
| III | Globe 4 自然環境の保護につ いて学ぶ | 【情報交換】 We can do something to protect nature など【知】 | G：世界の自然環境保護について学 ぶ【知】【思】 L：東川および北海道・日本の自然 保護について学ぶ【知】【思】【人】 | 2 |
| I | 中学校の復習 | 動名詞【知】 | — | 1 |
| II | EC-I/L6 江戸時代の歯ブラシ | 動名詞【知】 | L：江戸時代の文化・風習について 知る【知】 | 8 |
| I | 中学校の復習 | 完了形【知】 | — | 3 |
| II | EC-I/L7 マチュピチュ | 完了形【知】 | G：古代遺跡について知る【知】 | 9 |
| I | 中学校の復習 | 受動態【知】 | — | 2 |
| II | EC-I/L8 モタラと地雷 | 受動態【知】 | G：地雷の被害について知る 【知】【思】 | 9 |
| III | Globe 5 地雷の被害について 学ぶ | 【情報交換】 英文記事の読み取り | G：地雷の被害について深く知る L：日本の地雷除去の国際貢献につ いて知る【知】【思】【人】 | 1 |
| I | 中学校の復習 | 関係代名詞【知】 | — | 8 |
| II | EC-I/L9 ディック・ブルーナ | 関係代名詞【知】 | G：ミッフィーの歴史と貢献につい て知る【知】【思】 | 8 |
| II | EC-I/L10 偉大なピアニスト： 辻井伸行 | 関係副詞 It ~ to ~ 構文【知】 | L：辻井氏の、自身の障害とピアノ との向き合い方について知る 【知】【思】【人】 | 9 |
| III | Globe 6 福祉について考える | 【関係構築】 【知】【思】 | L：町内の福祉施設見学を振り返 り、福祉を受ける人の気持ちを考え るとともに、よりよい福祉のあり方 を考える【知】【思】【人】 | 1 |
| I | 文法事項のまとめ | 関係詞の復習【知】 | — | 2 |

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|-----|-----------------------|------------------------|--|----|
| II | EC-I/L11 自然からのアイデア | 分詞構文【知】 | L + G : 身近なもので、自然界からヒントを得ているものについて考える【知】【思】【人】 | 10 |
| I | 文法事項のまとめ* | 既習事項の確認【知】 | 英検 IBA の受験 | 3 |
| III | 他校生との交流* | 【関係構築】 【思】 | L + G : 台湾、ラトビアその他の留学生および町内の小・中学生との交流活動【知】【思】【人】 | 6 |
| III | 言語活動 1 * | 【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】 | G : ALT または CIR に対するインタビュー活動【知】【思】【人】 | 6 |
| III | 言語活動 2 * | 【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】 | G : ALT による文化、歴史的な内容の文章の読解【知】【思】【人】 | 8 |

第 1 学年時数総計 : 150

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。

【第 2 学年】

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|-----|-----------------------------|------------------------------------|--|----|
| III | 自己紹介活動 | 【関係構築】 【思】 | L : 過去 1 年間の取組に基づく英語による自己開示活動【思】【人】 | 2 |
| II | EC-I/L12 スティーブ・ジョブズ | 仮定法【知】 | G : スティーブ・ジョブズの創造性の源について考える【思】【人】 | 12 |
| IV | Globe 7 課題発見と創造的解決 | In my opinion This is how ~ 【知】 | L + G : レッスン 11 および 12 をうけて、日常生活や地域、あるいは世界規模で何か課題を発見し、それに向けて解決の提案をする【思】【人】 | 4 |
| II | EC-I/Enjoy Reading 星の王子様 | 物語文の文章構成 【知】【思】 | L + G : 文学作品を通して人生に対するものの見方を振り返る【思】【人】 | 8 |
| III | Globe 8 日本の作品を英訳してみる | 英作文 【関係構築】 | L : 日本固有の物語とそのメッセージを英語で発表する【知】【思】【人】 | 3 |
| I | 中学校の復習 | 間接疑問【知】 | — | 2 |
| II | EC-II/L1 世界の朝食 | 間接疑問【知】 | G : ベトナム、ブラジル、ドイツの朝食について知る【知】 | 9 |

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|-----|------------------------------|---|---|----|
| II | Globe 9 朝食と地理を結び付けて考える | 因果関係の説明【知】【思】 | L：北海道や日本の地形、土壌、気候などと農作物との関係を学ぶ G：上記に基づき、世界各地の地理的要因と農作物との関係を探る 【知】【思】 | 2 |
| I | 中学校の復習 | 比較表現【知】 | — | 2 |
| II | EC-II/L2 アイルランド | 比較表現【知】 | G：アイルランドの文化について学ぶ【知】 | 9 |
| III | Globe10 紹介文について考える | Let me introduce my Country 他【知】 【情報交換】 | L：東川、東神楽、旭川の英語ガイドを読んで、自分の暮らす地域が英語を通してどのように説明されているかを知ることを通して東川高校の紹介文を英語で作成する 【思】【人】 | 4 |
| I | 中学校の復習 | 分詞の形容詞的用法【知】 | — | 2 |
| II | EC-II/L3 「さかなクン」の国鯿の発見 | 分詞の形容詞的用法 be believed to do -er than any other ~【知】 | L：国鯿の発見と「さかなクン」の学びの姿勢とのつながりに気付く 【思】【人】 | 11 |
| IV | Globe11 学びがどのように生きるのか | 予想・可能性を述べる文章構成【知】【思】 | L + G：様々な人の成果が、どのような学びからもたらされたかについて学ぶ【知】【思】 L：自分がどのような学びの積み重ねが出来るかを考える【思】【人】 | 2 |
| I | 中学校の復習 | SVOC【知】 | — | 1 |
| II | EC-II/L4 ノーベル賞のエピソード | 知覚動詞構文 V + O + to do【知】 | G：ノーベル賞にまつわる様々なエピソードを知る【知】 | 9 |
| II | EC-II/L5 ツタンカーメンの墓にまつわること | 使役動詞 関係代名詞 what【知】 | G：ツタンカーメンの墓にまつわるエピソードを知る【知】 | 9 |
| I | 文法の復習 | 知覚動詞構文 V + O + to do 使役動詞【知】 | — | 3 |
| II | EC-II/L6 ユニークな国々 | 疑問詞 + to do It seems that ~【知】 | G：バチカン市国、ナウル共和国など、世界の特徴的な国について知る【知】 | 8 |

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|---|--------------------|-------------------------------|---|----|
| Ⅲ | Globe12 | 情報伝達の文章構成 【知】【思】 【情報交換】 | L : 道内市町村の土地面積や産業などについて調べ、発表しあう 【思】【人】 | 2 |
| I | 中学校の復習 | 現在完了 It ~ to ~ 構文【知】 | — | 2 |
| Ⅱ | EC-Ⅱ/L7 ガラパゴス諸島 | 現在完了進行形 形式目的語構文【知】 | G : ガラパゴス諸島の環境保護について知る【知】 | 9 |
| Ⅳ | Globe13 | 意見文の文章構成 【知】【思】 | G : 日本や世界全体でどのように生態系が保護されたり、あるいは危機にさらされたりしているのかを知る【知】【思】 L : 上記に基づき、自分が居住する地域の環境保護に向けどのような主体的取り組みができるのか考える【思】【人】 | 4 |
| I | 文法事項のまとめ* | 既習事項の確認【知】 | 英検 IBA の受検 | 3 |
| I | 商業英検対策* | 既習事項の確認【知】 | — | 13 |
| Ⅲ | 他校生との交流* | 【関係構築】 【思】 | L + G : 台湾、ラトビアその他の留学生および町内の小中学生との交流活動【知】【思】【人】 | 4 |
| Ⅲ | 言語活動* | 【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】 | G : ALT による文化、歴史的な内容の文章の読解【知】【思】【人】 | 4 |
| Ⅲ | Globe14* | 【関係構築】 【情報伝達】 【知】【思】【人】 | L + G : 見学旅行先で出会う海外観光客と交流し、互いの故郷について情報交換しあう【知】【思】【人】 | 8 |

第2学年時数総計：150

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。

【第3学年】

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル/グローバル | 単位 |
|---|--------------------------------------|--------------------------------|--|----|
| Ⅲ | 自己開示活動 将来の夢は | 【関係構築】 【思】 | L: 過去2年間の取組に基づく英語による自己開示活動【思】【人】 | 2 |
| I | 中学校の復習 | 否定表現 助動詞 受動態【知】 | — | 2 |
| Ⅱ | EC-Ⅱ/L8 書道の歴史と挑戦 | 部分否定 助動詞+受動態【知】 | L: 書道の歴史と現在の取組について知る【知】 | 10 |
| Ⅱ | Globe15 | 理由や要点を踏まえつつ感想を述べる【知】【思】 | L: 書道の様々な形式や取組について知る【知】【思】 | 1 |
| Ⅲ | Globe16 | 新たな視点を提示する説明文の文章構成 譲歩【知】【思】 | L: ステレオタイプに陥らない日本文化の新たな魅力を再発見し、海外の人に伝える【知】【思】【人】 | 2 |
| I | 文法の研究 | 様々な否定表現【知】 | — | 2 |
| I | 中学校の復習 | 関係代名詞 現在完了【知】 | — | 4 |
| Ⅱ | EC-Ⅱ/L9 水族館の歴史 | 関係代名詞の非制限用法 完了形の受動態【知】 | L: 日本のお水族館の歴史について知る【知】 | 10 |
| Ⅱ | EC-Ⅱ/L10 友好の歴史 | 過去完了 強調構文【知】 | L+G: 日本とトルコの友好の歴史について知る【知】 | 10 |
| Ⅱ | Globe17 | 歴史的経緯を伝える内容の文章構成【知】 | L+G: トルコ以外で友好の歴史がある国について理解し学んだことを発表しあう【知】【思】【人】 | 3 |
| I | 文法の研究 | 各種特殊構文【知】 | — | 3 |
| Ⅱ | EC-Ⅱ/Enjoy Reading チャーリーとチョコレート工場 | 物語文の文章構成 【知】【思】 | L+G: 文学作品を通して人生に対するものの見方を振り返る【思】【人】 | 10 |
| Ⅲ | 他校生との交流* | 【関係構築】 【思】 | L+G: 台湾、ラトビアその他の留学生および町内の小中学生との交流活動【知】【思】【人】 | 4 |
| Ⅲ | 言語活動* | 【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】 | G: ALTによる文化、歴史的な内容の文章の読解【知】【思】【人】 | 4 |

| 期 | 内 容 | コミュニケーション | ローカル／グローバル | 単位 |
|----|---|-----------------------|--|----|
| IV | Globe18* 自己開示から関係構築へ | 自己開示のための諸表現 【知】【思】 | L + G : 同僚として、あるいは顧客として海外出身の人とどのように関係構築をしていくか考える 【知】【思】【人】 | 10 |
| IV | Globe19* 根拠を持って意見を述べる | 意見文の文章構成 【知】【思】 | L + G : 社会で起きている様々な出来事に対し、根拠を持って説得力のある意見の述べ方を考える 【知】【思】【人】 | 10 |
| IV | Globe20* 問題・課題を発見して協働的活動の中から解決策を考え出す | 課題発見の思考法 【知】【思】【人】 | L + G : 社会の様々な問題・課題に対し、多様な観点からテーマに対して考察を深め、解決策を案出しようとする 【知】【思】【人】 | 10 |

第3学年時数総計：98

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。

エ 実施の効果

研究開発の初年度は、『グローブ(Globe)』カリキュラム作成を中心として、外国語活動の充実と地域人材の積極的な活用、学校間(校種間)連携等に取り組んできた。

① 外国語活動の充実について

初年度のカリキュラム実践は、幼稚園で行った。

幼稚園では、年中クラス(4歳児)を中心に外国語を活用して触れ合う活動を行い、年長クラス(5歳児)を中心にALTとともに、毎月1時間英語活動を行った。幼児は、「色」、「食べ物」、「動物」、「体」、「数字」など、簡単な英単語に触れ、歌ったり踊ったりする活動を楽しみながら、様々な国の文化に触れることができた。

小学校では外国語活動の充実に向けて、ALTとJTE、担任との打合せに時間をかけた。第1～4学年は「Hello kids」を使用し、第5・6学年は「Hi, friends!」を中心に発達の段階に応じて授業を展開した。外国語活動の打合せ時間を定期的を設定したことにより、それぞれの役割分担や効果的な教材が明確になり、より充実した授業を進めることができた。授業においては、英語を使う必然性を意識したことで、児童は、「伝えたい」、「伝わってうれしかった」という有用感を得ることができた。

また、環境整備に気を配り、日常的に英語に触れる機会を増やすなど、英語を用いて抵抗なく伝えられるよう工夫した。

② 地域人材の活用について

外国語活動の終末において、様々な国の人々に学習したことを使って伝える場面を設定したことにより、英語で伝えようという必然性が生まれた。児童は、既習事項の英単語やジェスチャーを使

い、相手に伝えることを目的として、意欲的に活動するとともに、伝わった瞬間は、互いにうれしそうな表情を見せるなど、達成感を得ることができた。

また、活動の中で、外国の文化に触れ、外国の文化に思いをはせる姿が見えた。

今後も、様々な国の人々との触れ合いを通して、互いに伝えようとする必然性を生む活動が必要である。

③ 国際交流及び学校種間交流について

中学校や高等学校では、様々な国の人々との交流を盛んに行っている。今年度は、中学校でフィンランドの人々との交流を行い、高校でタイの人々との交流を行うなど、文化の違いを理解する機会となった。今後、カリキュラム作成において、より効果的に取り組むことができると考える。

幼・小連携事業としては、幼稚園の年長クラスと小学校第1学年との間で毎年交流を行っている。今年度は、英語活動を行い、自己紹介を英語で伝え合ったり、英語で話された色を当てたりしながら、楽しむことができた。幼稚園で、どのようなカリキュラムで進めているのかが事前に分かっていたので、互いに無理のない英語活動を通してコミュニケーションを図ることができた。一方で、クラスルーム・イングリッシュが統一されていなかったため、幼児にとって伝わらない部分があったことが課題として残った。

小学校第6学年と高校生との交流として、「Hi, friends! 2」の物語文「ももたろう」を高校生が英語劇で披露した。小学生にとっては英語の楽しさを実感することができ、自分たちも英語で表現したいという意欲につながった。また、高校生にとっては小学生に英語で伝えるために簡単な英単語や短い英文にしようと工夫したことにより、伝えられた喜びを味わう機会となった。

こうした他校種の子どもが目的をもち相互に活動したことは、発達の段階におけるコミュニケーション能力を高める上での動機付けとなる、価値のある活動となった。

オ 研究開発実施上の問題点及び今後の研究開発の方向

今年度は、カリキュラム作成を中心に進めてきた。次年度については、自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていく子どもを育成するためのカリキュラムとなっているかを検証する。

- ・各学校における新教科『グローブ (Globe)』の毎時間の実践を記録し、実践記録をもとに、国際教育の推進に向けた方向性を検討及び修正を行う。特に、単元構成、CAN-DO リスト及び評価について具体的な検討を行う。
- ・各単元において、地域人材や地域教材の効果的な活用について、実践を通して検討する。特にLocal、Global において、発達の段階に応じた単元の構成を検証する。
- ・自己の確立や多文化共生の資質・能力の評価については、単元ごとの評価に多様性をもたせ、より客観的な評価について検討を行う。
- ・英語をツールとした Communication の展開について、発達の段階に応じた資質・能力の設定など共通理解を図る。また、幼・小、小・中におけるクラスルーム・イングリッシュなど、校種間による連携について再検討を行う。

- ・小学校の複式校において、特色を生かしたカリキュラムの在り方を検討する。
- ・中学校では、Local、Global の位置付けについて、検討及び修正する。また、移行期間におけるカリキュラム編成について、より効果的なカリキュラムの構成を検討する。
- ・高等学校卒業段階において、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力が備わった生徒の具体像を明確にする。
- ・特に、中学校、高等学校では、Globe に関わる内容について、他教科・他領域における国際教育の学習内容を洗い出し、カリキュラムの位置付けを行う。また、全教職員による国際教育への関わりを深め、組織的な取組を確立する。
- ・幼・小・中・高の共通理解を図るため、定期的な研修会の開催や実践が見える情報発信に努める。
- ・保護者アンケートでは、国際教育に関する意識が高いことから、今後についても地域や保護者に成果が見える場面や機会を設定する。